

速乾性擦込式手指消毒薬による消毒前後の 手指の黄色ブドウ球菌検出状況と 鼻腔保菌・手荒れ・手指衛生の習慣との 関係についての検討

田多良佳代(基礎看護学)

【キーワード】 黄色ブドウ球菌・速乾性擦込式手指消毒薬・鼻腔保菌・手荒れ・手指衛生の習慣

現在、臨床現場ではアルコールベースの速乾性擦込式手指消毒薬が使用されるようになったが、これによる消毒後、種々の感染症の原因菌となる黄色ブドウ球菌が手指から検出されなくなるかどうか十分な検討は行われていない。そこで、速乾性擦込式手指消毒薬による消毒前後の手指の黄色ブドウ球菌検出状況と、その検出状況に影響を及ぼすと考えられる鼻腔保菌・手荒れ・手指衛生の習慣との関係について検討を行った。

研究に承諾を得られた看護大学生104名と宮崎県内A病院の職員21名を対象とし、黄色ブドウ球菌の保菌状況を継続的にみるため学生には2回調査を実施した。手指衛生の習慣に関するアンケートを実施し、速乾性擦込式手指消毒薬による消毒前後の利き手の手指、左右の鼻腔から黄色ブドウ球菌の分離・同定を行い、検出された黄色ブドウ球菌についてパルスフィールド電気泳動(PFGE)を行った。

学生の調査において、消毒前後の手指からの黄色ブドウ球菌検出率は、消毒前32.7%から、消毒後5.9%と有意に減少し ($p<0.0001$)、手指の黄色ブドウ球菌数においても消毒後に有意に減少した ($p<0.05$)。黄色ブドウ球菌鼻腔保菌者 (33.2%) において、消毒前の手指からの黄色ブドウ球菌検出率は57.4%であり、黄色ブドウ球菌鼻腔非保菌者 (66.8%) の20.4%に比べて有意に高かった ($p<0.0001$)。

消毒前の手指と鼻腔からの黄色ブドウ球菌検出回数においても有意な関連がみられた ($p<0.0001$)。鼻腔と手指の両方から黄色ブドウ球菌が検出された場合、DNA型が同一または類似である割合は、消毒

前で89.7%、消毒後で85.7%であった。

普段の手洗い方法において、流水のみの者の消毒前の手指からの黄色ブドウ球菌検出率は47.2%であり、石鹸と流水の者の24.4%に比べて有意に高かった ($p<0.01$)。普段の手洗い方法と消毒前後の手指からの黄色ブドウ球菌検出回数には有意な関連がみられた ($p<0.05$)。

4名の学生の鼻腔また消毒前の手指からMRSAが検出された (鼻腔のみ1名、手指のみ1名、鼻腔と手指2名) が、消毒後の手指からのMRSAの検出はなかった。

A病院の調査において、鼻腔からの黄色ブドウ球菌検出率は28.6%、消毒前の手指からの黄色ブドウ球菌検出率は9.5%であったが、消毒後の手指から黄色ブドウ球菌の検出はなかった。MRSA検出者は2名 (9.5%) であり、ともに鼻腔からの検出であった。

以上の結果から、今回の研究で使用した速乾性擦込式手指消毒薬は黄色ブドウ球菌の除菌に有効であること、黄色ブドウ球菌の鼻腔保菌や普段の手洗い方法と手指からの黄色ブドウ球菌の検出に関連があることがわかった。臨床現場において、手洗い方法や手洗い・手指消毒の頻度に個人差がみられ、手指衛生のコンプライアンスについても課題が考えられた。

5年一貫看護師養成課程専攻科における 指導の方向性を探る

—臨地実習における学生との関わりをとおして—
末永久美子(基礎看護学)

【キーワード】 5年一貫看護師養成課程・指導過程・立場の変換・対象特性・認識

本研究の目的は、5年一貫看護師養成課程専攻科における臨地実習の指導場面から、学生の特徴と、教員の認識および表現の特徴を分析し、指導の方向性を見出すことである。